

平成 21 年 6 月 4 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18720078

研究課題名 (和文) 地中海世界を視座に据えた近現代シチリア文学の意味の再構成

研究課題名 (英文) The Sicilian modern literature examined from a Mediterranean perspective

研究代表者

菊池 正和 (KIKUCHI MASAKAZU)

京都外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：30411002

研究成果の概要：従来、イタリアや大陸ヨーロッパ文学の範疇・影響関係の下で位置付けが試みられては、その特異性のために文学潮流の周辺に置かれていた近現代シチリア文学を、そこに内在する独特な死生観や宗教観、ユーモアから分析したところ、神の超越性に信を置かない内在的な信仰や、再生・輪廻の概念と結びつく大地母神崇拝、愚かさや狡知を巧みに織り交ぜて社会における暗黙の因習を打破する愚者の笑いといった地中海的な心性を指摘することができた。これらの成果によって、シチリア文学に地中海的な視座からアプローチすることの正当性が実証できた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総 計	3,400,000	330,000	3,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：シチリア文学、地中海、大地母神、死生観、ジュファー、ルイジ・ピランデッロ

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、様々な民族に支配されてきた複雑な歴史やそれに伴う文化の重層性は認識されつつも、文学研究においてシチリア文学は、イタリアや大陸ヨーロッパ文学の範疇・影響関係の下でしか位置づけの試みが為されていなかった。

(2) 国内での近現代シチリア文学の研究動向としては、ごく少数の作家の作品のみが翻訳され、それに解題程度の研究成果が付されているに過ぎず、学術雑誌における研究論文に至っては、本研究採択以前の 10 ヶ年に掲載されたのが、採択者の拙稿を描いて他にはないような状態だった。そしてイタリア本国でも、シチリア人の文学者が、ようやく自ら

のルーツとその文学的な特異性との関わりを主張してきていたが、多くの研究者はヨーロッパの文芸思潮を唯一の視座として解釈している状況だった。

2. 研究の目的

(1) 近現代のシチリア文学を同時代のイタリア国家や大陸ヨーロッパの文芸思潮の枠内で捉えるのではなく、地中海世界全体を視座に据えて、すなわち、空間的には多彩な文化や思想が合流する地中海の中心として位置づけ、時間的には古代ギリシャ植民市時代や9世紀のアラブ支配まで遡った通時的な歴史の堆積の結果として捉えなおし、そしてそこに民俗学的、社会学的なアプローチを加えることで、シチリア文学の特異性を解明することを目的としていた。

(2) シチリア文学における宗教観や死生観は未開拓の研究領域であり、そこに現れる祭事や風習はほとんどが紹介されていなかったのもので、研究論文の執筆や資料の翻訳は勿論のこと、その他の有形無形の事象や心性を広く紹介することで、今後の同分野の研究の一つの指標を作るという意識を念頭においていた。

3. 研究の方法

(1) 近現代シチリア文学のモチーフを丁寧に読み解いていくことで、そこに現れている特異性を浮き彫りにすることから出発した。具体的には、リソルジメント後の政治体制の急変に取り残される没落貴族の斜陽を描いたランペドゥーサの『山猫』や、リソルジメント後の民衆の幻滅や、変わらない過酷な獣的環境を冷徹な自然主義の筆致で描いたヴェル

ガの短編小説群、それまでの演劇概念や形式を完全に打破して革新的な演劇世界を切り開く一方で、シチリアの土着的な風習や形式主義の抑圧、神話や迷信などに自己の存在認識を完全に依存していたピランデッロの戯曲作品群、マフィアや政治腐敗の問題と正面から対峙したシャーシャの小説や民俗学的・社会学的エッセイ、そしてここ数年シチリア各地を舞台にした推理小説でベストセラー作家の座を揺るぎないものになっているカミッレリーなどが当研究の射程となった。

(2) 現在でもシチリア社会に慣習として残存し、民衆の生活や思考方法に影響を与えている、ギリシャやアラブ起源の祝祭や古代宗教儀礼を調査することで、近現代シチリア文学に特徴的に見られる独特の死生観や宗教観を研究した。その際には、文献学的な研究に加え、現地シチリアに滞在して、著名な民俗学者 G.ピトレが残した民俗学博物館などで実地調査を行ったほか、パレルモの聖女ロザリーアの祝祭や宗教儀礼に実際に立会い、ビデオに収めて映像資料を作成した。

(3) シチリア文学に特有に現れるガッリズモ（男性主義）やウモリズモ（諧謔主義）の源泉を探るべく、大体 11 世紀以降広くアラブ世界全域に流布したジュファーを主人公とする一連の滑稽譚を分析し、シチリアにおけるその受容と特徴とを分析した。

(4) シチリア人の存在認識や死生観に大きな影響を及ぼしている、地中海的女性像の原型である大地母神への土着的な信仰について、文学作品中の女性像の役割や象徴性から証明した。

4. 研究成果

(1) ギリシャやアラブ起源の祝祭や宗教儀礼を実地に調査し、また民俗学者の G.ピトレや作家でもある L.シャーシャが著したシチリアの祝祭に関する文献学的資料を研究することで、シチリアの民衆が持つ宗教観・死生観を分析した結果、まず第一に、シチリア民衆が持つ現世主義的な宗教観を解明した。神の存在や来世における救済といった宗教の超越性には信を置かず、現世における実際の・物理的な救済を求め、身近な存在である聖人にすがりつく彼らの信仰は歴史的要因に帰される。副王を通じた外国人支配とその制度維持のために温存された旧態依然とした大土地所有制、その中で搾取する農場管理人に、彼らと結託する腐敗した警察、司法。ユダヤ人の状況にも比せられるほどの抑圧の中で、自らの生命とそれを経済的に支える土地に執着するようになった結果が、彼らの物質主義であり信仰における現世主義へと繋がった。また、彼らの死生観の特徴の一つとして、キリスト教的家父長社会に先立ってシチリアの地に存在していたギリシャ的な大地母神信仰の影響を解明した。生命を自然のサイクルになぞらえ、母親とのつながりを媒介にして再生・輪廻する存在とする彼らの死生観は、イタリアの他の地方においては見られないものであり、そこから G.ヴェルガや L.ピランデッロといったシチリアの作家たちの文学の特徴が生まれていることを指摘した。

(2) 広くアラブ世界全域に流布している愚者ジュファーを主人公とする一連の滑稽譚の、シチリアにおける受容とその特徴の分析を通じて、近現代シチリア文学に特徴的に現れる諧謔精神やアイロニーの源泉を探索した。ジュファーの滑稽譚の中では、愚かさや狡智という両義的な特性の間を揺れ動きながら、一貫して、その瞬間に期待されていることの逆を行うことで、明文化されてはいな

いが社会で暗黙のうちに受け入れられている因習を打破し、価値観を転倒させる愚者、道化の社会的な役割を分析した。そして、この愚かさや狡智との両義性、意識的な使い分けこそが、近現代シチリア文学の皮肉な嘲笑や諧謔精神の中核をなしているという仮説を提出した。また、シチリアだけに見られる受容の特徴として、ジュファーを他の村や地域に対する好戦的な挑発の道具にするという党派主義やカンパニリズムを挙げ、近現代シチリア文学の主要なモチーフの1つであるマフィアや政治腐敗との関連を裏付けることができた。

(3) 採択初年度より進めていた文献学的研究の成果を整理し、近現代シチリア文学に内在する地中海的な心性を指摘し、それが現代においてなお、シチリア人の存在論的な認識やシチリア文学に潜在する主要なモチーフになっていることを学術雑誌に論文という形で発表した。とりわけ、20 世紀の西洋演劇史上において、それまでの演劇概念や形式を完全に打破して、革新的な演劇世界を切り開いたシチリアの劇作家ルイジ・ピランデッロの作品を取り上げ、地中海的な女性像の原型である大地母神への土着的な信仰が、アイデンティティの危機といった近代以降の人間共通の文脈において、シチリアにおいてはなお、存在再生の根拠となっていることや、シチリア文学の中に現れる独特の死生観・宗教観が、実は反カトリック的であり、そこには古代ギリシャ・ローマやアラブ世界も含めた連綿と続く地中海文化の反映が具体的に見られることなどを明らかにした。これらの成果によって、従来、様々な民族に支配されてきた複雑な歴史やそれに伴う文化の重層性は認識されつつも、文学研究においてはイタリアや大陸ヨーロッパの範疇・影響関係の下で位置づけが試みられてきたシチリア文学に、地中海的視座からアプローチすること

の正当性が証明できたように思われる。また、こうした視座のさらなる探求は、他の南欧諸国やアラブ世界、北アフリカの思想や文学を研究していく上で、新たな方法論によるアプローチを可能にし、未見ではあるが潜在的な理解の枠組みを提供するものであると確信している。

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 菊池正和、「ピランデッロの戯曲作品における女性像とその役割」、『イタリア学会誌』、第58号、pp. 85-107、2008年、査読有。
http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00015107/ISS0000427493_ja.html

(※2009年10月20日より公開)

② 菊池正和、「シチリアにおけるジュファ－研究序説」、『京都外国語大学研究論叢』、第70号、pp. 421-439、2007年、査読有。

③ 菊池正和、「シチリアにおける宗教的祝祭について」、『京都外国語大学研究論叢』、第67号、pp. 279-297、2006年、査読有。

〔学会発表〕(計1件)

① 菊池正和、「ピランデッロの戯曲作品における女性像 ―その両義性とマルタ・アッバ」、イタリア学会、2007年10月20日、東京大学。

6. 研究組織

(1)研究代表者

菊池 正和 (KIKUCHI MASAKAZU)

京都外国語大学 外国語学部 講師

研究者番号：30411002